

●NPOパワーアップ補助金事業成果報告会 資料

	団体名	小林住みよいまちづくり会			
	代表者名	会長 川村 文雄			
	所在地	印西市小林北2-9			
1. 事業名	里山ウオーキングコースとしての道作古墳およびその周辺整備				
2. 事業費	201,076 円 (このうち県の支出 97,500円)				
3. 事業期間	平成20年7月10日 ~ 平成21年1月25日				
4. 事業の目的	道作古墳群が整備された里山の姿を保持し、里山ウオーキングの中核地点となり、ちょっとした休憩と清々しい気持ちを味わえ、小林の歴史の一部を知れる場所にしたい。				
5. 事業概要	<p>当地区の特徴である「里山と古墳」を生かしたまちづくりの活動として今まで3回実施してきた「小林ウオーキング大会(1回/年)」に結びつけて、なかでもその中核部分にあたる‘道作古墳’に着目して、ここがいつもきれいな里山の状態を保持されていることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道作古墳群の不要な木及び竹やぶの伐採と除草、その後の維持管理 ・整備された場所に山野草を植栽し、その後の維持管理 				
6. 事業経過	達成したい目標				
	(月日)	(実施項目)	(場所)	(参加人数)	(内容・目的)
	8/6~23	器具・用具の購入	ホームセンター	会員 2名	草刈機他の選定・購入
	8月24	整備作業	道作古墳	会員 9名	除草・伐採
	8月25	清掃作業	同上	会員 1名	除草・伐採した草木の廃却
	8月26	山野草植栽	同上	会員 2名	提供された彼岸花球根植栽
	9/8~9	ポスター作成・掲示	駅前掲示板、商店街、公民館他	会員 1名	9月13日整備作業の住民への参加呼びかけ
	9月13	整備作業	道作古墳	会員 11名	除草・伐採
	9月14	遊歩道	道作古墳	会員 1名	ルート設定
	9月15	清掃作業	同上	会員 1名	除草・伐採した草木の廃却
	9月18	清掃作業	道作古墳	会員 1名	同上
	10/13~14	ポスター作成・掲示	駅前掲示板、商店街、公民館他	会員 1名	10月25日整備作業の住民への参加呼びかけ
	10月25	整備作業	道作古墳	一般 3名 会員 12名	除草・伐採及び廃却
	10月25	山野草の植栽	道作古墳	会員 2名	提供された鈴蘭の植栽
	11月11	山野草の植栽	道作古墳	会員 1名	エビネ植栽
	11月15	整備作業	道作古墳	会員 6名	竹やぶ間伐、篠刈り払い他
	11月20	遊歩道清掃	同上	会員 2名	ウオーキング大会準備
	11月22	ウオーキング大会	道作古墳	一般 71名 会員 20名	休憩所、道作古墳群紹介 町内会、楽走会と連携実施
	12月13	整備作業	道作古墳	会員 8名	竹やぶ間伐、篠伐採、廃却
	12/26~27	整備作業チラシの印刷	当会事務所	会員 2名	1月24日整備作業の住民への参加呼びかけチラシ印刷
	12月27	山野草植栽	道作古墳	会員 8名	福寿草、春蘭他植栽
	12/28~29	整備作業チラシのポステイング	小林地区	会員 8名	1月24日整備作業参加呼びかけ。1500部チラシ配布
	1月24	整備作業	道作古墳	一般 3名 会員 5名	篠切り株切除、遊歩道設置 作業着手(4月完成予定)

<p>7 事業成果</p> <p>「道作古墳群の不要な木および竹やぶの伐採と除草、維持管理」</p> <p>「整備された場所に山野草を植栽し、その維持管理することについて」</p>	<p>全体としては、補助金を有効に使い、H20年度に目標としていた整備作業はほぼ達成できた。その結果、道作古墳を整備された里山の姿に一步近づけることが出来たし、ウォーキングコースの中核地点とする見通しもたつた。住民からの反応も良い。未完の作業も完了できる目途がたっている。維持管理に力を入れ、いつも綺麗な里山としてあり続けるよう、活動を続ける決意でいる。</p> <p>達成率90%くらい。下記2点のみ作業途中の状態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 竹やぶに密生していた篠の伐採後の切り株切除作業が50%くらい残っている。 ・ 遊歩道設置作業の内、遊歩道境界杭(高さ15cm)の打ち込みが終わっていない。 <p>不要な木の伐採、竹やぶの間伐、古墳及び周辺の除草は予定どおり完了した。維持管理も続けている。住民から「道作古墳がずいぶん綺麗になったね。気持ちいいよ。あんなにひどかったのに」との声をかけられるようになった。住民の反応は期待以上であった。</p> <p>住民から提供されたものと本事業の補助金を予定して購入したものを合わせ、春蘭、エビネ、福寿草等、全部で12種類の山野草を植えた。植後の状態は良い。盗掘を防ぐため、目印や名札等はつけていない。自生している山ゆりや以前に植えてあったものを含めて、除草、施肥等をしている。</p>
<p>8 直面した課題と今後の展開</p> <p>今後の展開に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最大の問題は、伐採、除草した草木の処分をどうするかであった。整備作業をするたびに大量に出るため、市の処分場では事務所扱いとなり有料となる。会員が分担して家庭ごみとして出したり、会員が借りて管理している畑に埋める等、処分に苦労した。行政に対して、補助金だけでなく、市民活動団体が活動しやすいシステムの構築を働きかけていく必要がある。 ・ 本事業が住民の里山保全活動に広がることを期待して、ポスターやチラシで住民への参加を呼びかけたが、参加者は数人にとどまった。今後の最大の課題である。 ・ 本事業の展開を好感し、興味をもっている住民は少なくないが、前項に記したとおり、住民は受け手の立場にとどまっている。来年度は、例えばウォーキング大会を他の団体との共催とし、道作古墳を利用して活動する住民を増やすことで、道作古墳が小林里山保全のシンボリック的存在になるような取り組みを目指す。 ・ ハード面では、まず維持管理をこまめに行うこと。次に里山にふさわしいベンチの設置。三番目に遊歩道に木のチップを敷く。 <p>以上、人手も資金も苦しいやりくりとなるが、自分達が楽しみながらやることを根幹としていきたい。</p>
<p>9 補助金事業の感想等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の補助金により、懸案事項であった里山保全活動のスタートを切ることができたことに対して、正直感謝しています。 ・ できることなら、この補助金制度がもっと活用しやすいように事後の支払いではなく、申請が確定した段階で、振込みされるとありがたい補助金の金額が、事業全体の約半分であるが、2/3～3/4倍くらいの金額だとありがたい